

—国内動向—

1 東京都・大阪市中央卸売市場の需給動向（令和7年9月）

【ポイント】

- 気温は、全国的にかなり高かった。降水量は、沖縄・奄美でかなり少なかった。日照時間は、北日本太平洋側と沖縄・奄美でかなり多かった。
- 東京都中央卸売市場における野菜の入荷は、入荷量は10万5464トン、前年同月比99.1%、価格は1キログラム当たり321円、同99.4%となった。
- 大阪市中央卸売市場における野菜の入荷は、入荷量は3万5362トン、前年同月比98.3%、価格は1キログラム当たり289円、同102.5%となった。
- 市場では10月いっぱい物不足が続き、高値で推移することが見込まれるが、11月には全国的に物が揃い、価格は徐々に落ち着いてくると予想される。

（1）気象概況

上旬は、旬平均気温は、暖かい空気に覆われやすく、低気圧や前線に向かって暖かく湿った空気が流れ込んだ日もあったため、全国的にかなり高かった。旬平均気温平年差は、東日本で+2.9度、西日本で+2.6度、沖縄・奄美で+1.1度となり、1946年の統計開始以降、9月上旬として、東・西日本では1位、沖縄・奄美では1位タイの高温となった。旬降水量は、北・東日本日本海側を中心に、前線や湿った空気の影響で大雨となった所があった。また、4～5日にかけては、台風第15号の影響で、西・東日本太平洋側では大雨となり、宮崎県、静岡県、神奈川県では線状降水帯が発生した。さらに、静岡県などでは竜巻が発生した。上旬の終わりは本州付近に前線が停滞し、長崎県と熊本県で線状降水帯が発生した。一方、沖縄・奄美は、太平洋高気圧に覆われて晴れた日が多かった。旬間日照時間は、東・西日本では高気圧に覆われて晴れた日が多く、東日本太平洋側ではかなり多かった。

中旬は、旬平均気温は、全国的に暖かい空気に覆われ、北・東・西日本では低気圧や前線に向かって暖かく湿った空気が流れ込んだ日もあり、また、沖縄・奄美では晴れて気温が上昇す

るなど、全国的にかなり高かった。沖縄・奄美では旬平均気温平年差が+1.5度となり、1946年の統計開始以降、9月中旬として1位の高温となった。旬降水量は、本州付近に前線が停滞しやすく、前線に向かって湿った空気が流れ込み、日本海側を中心に大雨となった所があったため、東日本日本海側でかなり多かった。一方、沖縄・奄美は、太平洋高気圧に覆われて晴れた日が多く、旬降水量が少なく、旬間日照時間はかなり多かった。

下旬は旬平均気温は、暖かい空気に覆われる日が多く、低気圧や前線に向かって暖かい空気が流れ込んだ日もあったため、全国的にかなり高かった。晴れた日が多かった沖縄・奄美の旬平均気温平年差は +2.2度となり、1946年の統計開始以降、9月下旬として1位の高温となった。旬降水量は、北・東日本を中心に高気圧に覆われて晴れた所が多かったため、東日本太平洋側でかなり少なく、西日本日本海側で少なかった。一方、本州付近を低気圧や前線が数日の周期で通過し、21日には北海道で線状降水帯が発生し、大雨となった所があった。西日本では、期間前半に高気圧の周辺の湿った空気の影響を、また、後半は前線の影響を受けやすかった。旬間日照時間は、北日本日本海側と北・東日本太平洋側でかなり多く、東日本日本海側で多く、一方、

西日本では少なかった。沖縄・奄美では、太平洋高気圧に覆われやすく、旬降水量が少なく旬

間日照時間はかなり多かった。
旬別の平均気温、降水量、日照時間は図1の通り。

図1 気象概況

	平均気温			降水量			日照時間		
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
北日本									
東日本					日本海側 太平洋側	日本海側 太平洋側		日本海側 太平洋側	
西日本					日本海側 太平洋側	日本海側 太平洋側		日本海側 太平洋側	

資料：気象庁「9月の天候」

1 平年を上回る水準				2 平年並み				3 平年を下回る水準			
------------	--	--	--	--------	--	--	--	------------	--	--	--

(2) 東京都中央卸売市場

東京都中央卸売市場における野菜の入荷は、入荷量は10万5464トン、前年同月比99.1%、

価格は1キログラム当たり321円、同99.4%となった（表1）。

表1 東京都中央卸売市場の動向（9月速報）

品 目	入荷量 (t)	前年比 (%)	平年比 (%)	価格 (円/kg)	前年比 (%)	平年比 (%)	価格（円/kg）の推移		
							上旬	中旬	下旬
野菜総量	105,464	99.1	91.8	321	99.4	112.7	326	315	321
だいこん	7,781	111.6	98.4	138	94.6	106.3	127	135	151
にんじん	6,427	99.6	97.3	150	105.9	96.1	162	149	140
はくさい	6,549	88.1	74.3	114	101.4	107.6	133	103	113
キャベツ類	15,951	104.3	98.9	88	91.2	90.9	82	91	90
ほうれんそう	549	97.4	76.8	1,006	95.7	111.7	1,001	946	1,095
ねぎ	3,499	90.5	88.9	459	105.3	116.0	436	457	482
レタス類	8,794	103.4	100.4	204	73.3	94.3	258	175	189
きゅうり	6,200	99.6	88.7	448	101.3	127.1	416	448	490
なす	3,061	114.5	104.8	421	98.3	114.0	413	425	427
トマト	4,952	99.5	83.4	649	101.7	128.7	605	653	699
ピーマン	2,557	111.3	105.1	457	73.8	97.5	445	435	505
さといも	478	82.7	71.1	397	105.7	116.0	409	399	389
ばれいしょ	6,291	102.3	96.7	162	110.1	111.2	174	156	157
たまねぎ	7,242	78.2	75.8	168	144.2	158.9	148	166	191

資料：東京青果物情報センター「青果物流通月報・旬報」
注1：平年比は過去5カ年（令和2～6年）平均との比較。
注2：豊洲、大田、豊島、淀橋、葛西、北足立、板橋、世田谷、多摩ニュータウンの9市場のデータである。

価格は、根菜類はにんじんの給食需要の再開などもあり堅調な動きとなり、中旬以降やや落ち着いたものの、安値で推移した前年をやや上回り、平年をやや下回った(図2)。

葉茎菜類はレタスが、業務筋の在庫が解消され始め、動きが出てきたものの、大幅な高値で推移した前年を3割近く下回り、平年をやや下

回った(図3)。

果菜類はピーマンが、下旬に価格を上げたものの、高値で推移した前年を3割近く下回り、平年をわずかに下回った(図4)。

土物類はたまねぎが、高値で推移した前年を4割以上上回り、平年を6割近く上回った(図5)。

なお、品目別の詳細については表2の通り。

図2 にんじんの入荷量と卸売価格の推移

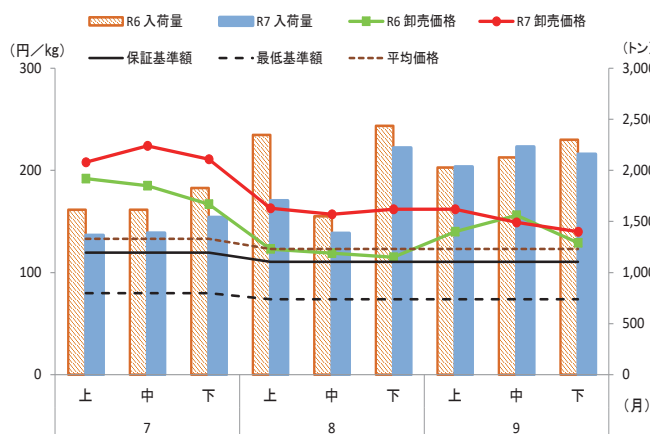


図3 レタスの入荷量と卸売価格の推移

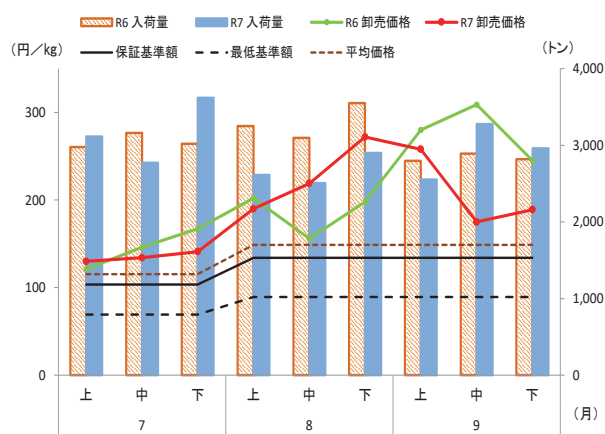


図4 ピーマンの入荷量と卸売価格の推移

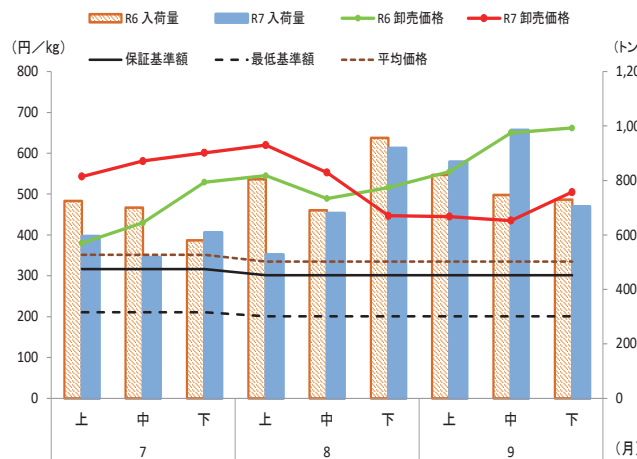
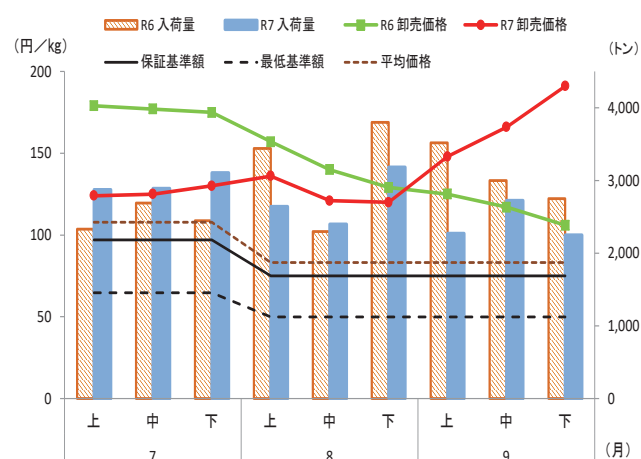


図5 たまねぎの入荷量と卸売価格の推移



資料：東京青果物情報センター「青果物流通旬報」

- ※1 卸売価格とは、東京都中央卸売市場の平均卸売価格で、指定野菜価格安定対策事業（以下「事業」という）における平均価格、保証基準額および最低基準額とは、関東ブロックにおける価格である。
- ※2 平均価格とは、事業における過去6年間の卸売市場を平均した価格を基に物価指数等を加味した価格である。
- ※3 事業における価格差補給交付金は、平均販売価額（出荷された野菜の旬別およびブロック別の平均価額）を下回った場合に交付されるため、上記の各表で卸売価格が保証基準額を下回ったからといって、交付されるとは限らない。

表2 品目別入荷量・価格の動向（東京都中央卸売市場）

類別	品目	9月の入荷量・価格の動向
根菜類	だいこん 	北海道産、青森産中心の入荷であった。北海道の作付面積は前年並みで、干ばつの影響により停滞していた生育は回復し順調である。青森の作付面積は前年並みで、生育は回復傾向にはあるが、引き続き高温・乾燥による生理障害の発生が多い。虫害の発生は落ち着いている。総入荷量はやや少なかった前年を1割以上上回り、平年をわずかに下回った。 価格は、下旬に向けて徐々に上昇し、高値で推移した前年をやや下回り、平年をかなりの程度上回った。
	にんじん 	北海道産中心の入荷であった。作付面積は前年並みで、一部地域で高温・干ばつの影響による短根などの生育不良が見られるが、生育はおおむね順調である。輸入の中国産は、前年を1割以上上回った。総入荷量は、前年、平年ともわずかに下回った。 価格は、給食需要の再開などもあって堅調な動きとなり、中旬以降やや落ち着いたものの、安値で推移した前年をやや上回り、平年をやや下回った。
葉茎菜類	はくさい 	長野産中心の入荷であった。作付面積は前年並みで、高温・干ばつの影響により玉伸びが悪く、若干小玉傾向である。全体的に生育は遅延傾向で、軟腐病、べと病が見られるほか、芯腐れ病も散見される。総入荷量は、少なかった前年を1割以上下回り、平年を2割以上下回った。 価格は、量販店の売り場構成が変わったことから、中旬の引き合いが強く、中旬以降は落ち着いたものの、高値で推移した前年をわずかに上回り、平年をかなりの程度上回った。
	キャベツ類 	群馬産中心の入荷であった。作付面積は前年並みで、若干遅延していた生育は回復している。高温の影響により、一部軟腐病などの病害や、小玉の発生が散見されたものの大きな影響なく生育は順調である。総入荷量は、少なかった前年をやや上回り、平年をわずかに下回った。 価格は、中旬以降に回復したものの、前年並みであった前年を1割近く下回った。
	ほうれんそう 	群馬産、栃木産の高冷地中心の入荷であった。群馬の作付面積は前年並みで、高温・乾燥による生育停滞、発芽不良が散見されるほか、一部で豪雨の影響により作業遅延が見られた。栃木の作付面積は、前年並みで、高温・干ばつの影響により生育は鈍化していたが、夜温の低下に伴い生育は回復した。ただし、下旬には気温が下がりすぎたことから、再度生育が停滞した。総入荷量は、少なかった前年をわずかに下回り、平年を2割以上下回った。 価格は、堅調で推移し、高値で推移した前年をやや下回り、平年を1割以上上回った。
	ねぎ 	北海道産を中心に秋田産、青森産の入荷があった。北海道の作付面積は前年並みで、高温・乾燥による肥大不足に加えて入荷が不安定だった。秋田の作付面積は前年並みで、高温・乾燥に加えてその後の豪雨などにより、生育停滞や病害の発生が見られ、また、虫害も平年より多い。青森の作付面積は前年並みで、定期的な降雨により生育は回復傾向となるも、軟腐病の発生が散見され、ヨトウムシ類などの虫害の発生も目立っている。輸入の中国産は前年を5割以上上回った。総入荷量は、前年を1割弱下回り、平年を1割以上下回った。 価格は、給食需要の回復や商材変わりによる特売需要などから堅調に推移し、高値で推移した前年をやや上回り、平年を大幅に上回った。
	レタス類 	長野産中心の入荷であった。作付面積は前年並みで、干ばつの影響からは回復し、生育はおおむね順調だが、活着不良による生育遅延や、玉伸びの悪い圃場が散見された。総入荷量は、前年をやや上回り、ほぼ平年をわずかに上回った。 価格は、業務筋の在庫が解消され始めたことから動きが出てきたものの、大幅な高値で推移した前年を3割近く下回り、平年をやや下回った。
果菜類	きゅうり 	福島産を中心に群馬産、岩手産、埼玉産などの入荷があった。福島の作付面積は前年並みで、露地作は記録的な高温・乾燥により樹勢が低下し、形状不良が多発し、病害も多く、切り上がりも早い。抑制作は、おおむね順調も病虫害が散見される。群馬の作付面積は前年並みで、高温・乾燥による落花、ボケ果の発生が見られるほか、病虫害の発生が散見される。岩手の作付面積は前年並みで、生育はおおむね順調も、虫害が散見されるほか、高温の影響による樹勢の低下が見られる。埼玉の作付面積は前年並みで、高温・乾燥による芯焼けが多発し、虫害も平年より多く、病害も散見されている。総入荷量は少なかった前年をわずかに下回り、平年を1割以上下回った。 価格は、中旬以降上昇し、高値で推移した前年をわずかに上回り、平年を3割近く上回った。
	なす 	群馬産を中心に栃木産、茨城産など関東産中心の入荷であった。群馬の作付面積は前年をやや上回り、高温・乾燥の影響による焼け、ボケ果の発生が見られるほか、病虫害も散見される。栃木の作付面積は前年をやや下回る。高温・乾燥の影響により花落ちが散見されたが、8月下旬以降回復している。虫害が散見されるほか、豪雨や風の影響による病害、品質低下も散見される。茨城の作付面積は前年並みで、高温の影響により樹勢低下が見られたが、おおむね順調である。後続の高知は、定植も順調に進み、前年並みの生育状況である。総入荷量は、少なかった前年を1割以上上回り、平年をやや上回った。 価格は、堅調に推移し、高値で推移した前年をわずかに下回り、平年を1割以上上回った。

	 トマト	千葉産、福島産、北海道産、群馬産中心の入荷であった。千葉の作付面積は前年並みで、高温での着花不良や障害果が散見されるが対策が進んでおり、生育はおおむね順調で、病虫害は前年より少ない。福島は作付面積は前年並みで、高温の影響により裂果、生理障害果が散見される。また、病害が散見され、虫害の発生も増加傾向にある。北海道の作付面積は前年並みで、高温による空洞化、裂果、軟化玉が散見される。群馬の作付面積は、前年をやや上回るが、高温・乾燥の影響により落花や着果不良が多く、小玉傾向の上に裂果が散見される。病虫害は縮小傾向にある。総入荷量は、少なかった前年をわずかに下回り、平年を2割近く下回った。 価格は、下旬に向け上昇し、大幅な高値で推移した前年をわずかに上回り、平年を3割近く上回った。
	 ピーマン	岩手産を中心に茨城産の入荷があった。岩手の作付面積は前年並みで、8月までの高温・乾燥の影響による樹勢の低下が散見され、ひび果や赤変が発生し、虫害も散見された。茨城の作付面積は前年並みで、抑制作の一部で高温障害による生育遅延が見られた。総入荷量は、少なかった前年を1割以上上回り、平年をやや上回った。 価格は、下旬に上がったが、月間では、高値で推移した前年を3割近く下回り、平年をわずかに下回った。
土物類	 さといも	千葉産を中心に埼玉産の入荷があった。千葉の作付面積は前年を下回り、早生品種のかん水圃場の生育は、おおむね順調も、晩生中心の非かん水圃場は、高温・乾燥による影響が見られる。埼玉の作付面積は前年並みで、高温の影響により概して丈が低く、かん水の状況により生育にばらつきが見られた。輸入の中国産は、前年をわずかに下回った。総入荷量は、少なかった前年を2割近く下回り、平年を3割近く下回った。 価格は、高値で推移した前年をやや上回り、平年を大幅に上回った。
	 ばれいしょ	北海道産中心の入荷であった。作付面積は前年並みで、生育は順調だが、干ばつの影響により品種によって動向に差が生じている。品質低下も散見された。総入荷量は、少なかった前年をわずかに上回り、平年をやや下回った。 価格は、中旬以降落ち着いたものの、前年、平年ともに1割以上上回った。
	 たまねぎ	北海道産中心の入荷であった。作付面積は前年並みで、高温・干ばつの影響により小玉傾向にある。輸入の中国産は、前年を7割以上上回った。引き続きニュージーランド産が増加している。総入荷量は、前年、平年ともに2割以上下回った。 価格は、高値で推移した前年を4割以上上回り、平年を6割近く上回った。

(執筆者：東京シティ青果株式会社 平田 実)

(3) 大阪市中央卸売市場

大阪市中央卸売市場における野菜の入荷は、
入荷量は3万5362トン、前年同月比98.3%、

価格は1キログラム当たり289円、同102.5%
となった(表3)。

品目別の詳細については表4の通り。

表3 大阪市中央卸売市場の動向(9月速報)

品 目	入荷量 (t)	前年比 (%)	平年比 (%)	価格 (円/kg)	前年比 (%)	平年比 (%)	価格(円/kg)の推移		
							上旬	中旬	下旬
野菜総量	35,362	98.3	91.4	289	102.5	114.3	296	281	290
だいこん	2,491	108.0	87.2	143	100.0	112.6	131	143	154
にんじん	2,336	89.4	87.6	135	99.6	89.1	151	130	124
はくさい	3,378	94.2	82.4	113	102.9	110.8	141	101	110
キャベツ類	5,755	99.1	95.5	87	96.5	95.3	82	90	87
ほうれんそう	260	113.7	89.7	1,047	95.6	108.5	1,057	1,005	1,095
ねぎ	792	95.8	96.0	540	93.5	102.4	545	536	539
レタス類	2,006	134.0	111.0	201	69.3	95.1	260	166	191
きゅうり	1,527	105.9	95.4	438	96.7	117.3	434	423	464
なす	759	117.7	102.3	383	95.6	108.3	383	374	395
トマト	1,890	103.9	91.1	643	100.2	124.1	580	652	717
ピーマン	701	101.0	114.0	483	78.1	98.6	460	462	546
さといも	68	91.6	58.1	456	98.7	131.6	480	439	461
ばれいしょ	2,300	78.1	80.2	151	117.8	115.8	165	133	158
たまねぎ	4,049	82.3	87.5	178	145.3	160.3	163	180	190

資料：農林水産省「青果物卸売市場調査」

注1：平年比は過去5カ年(令和2～6年)平均との比較。

注2：大阪本場および大阪東部市場のデータである。

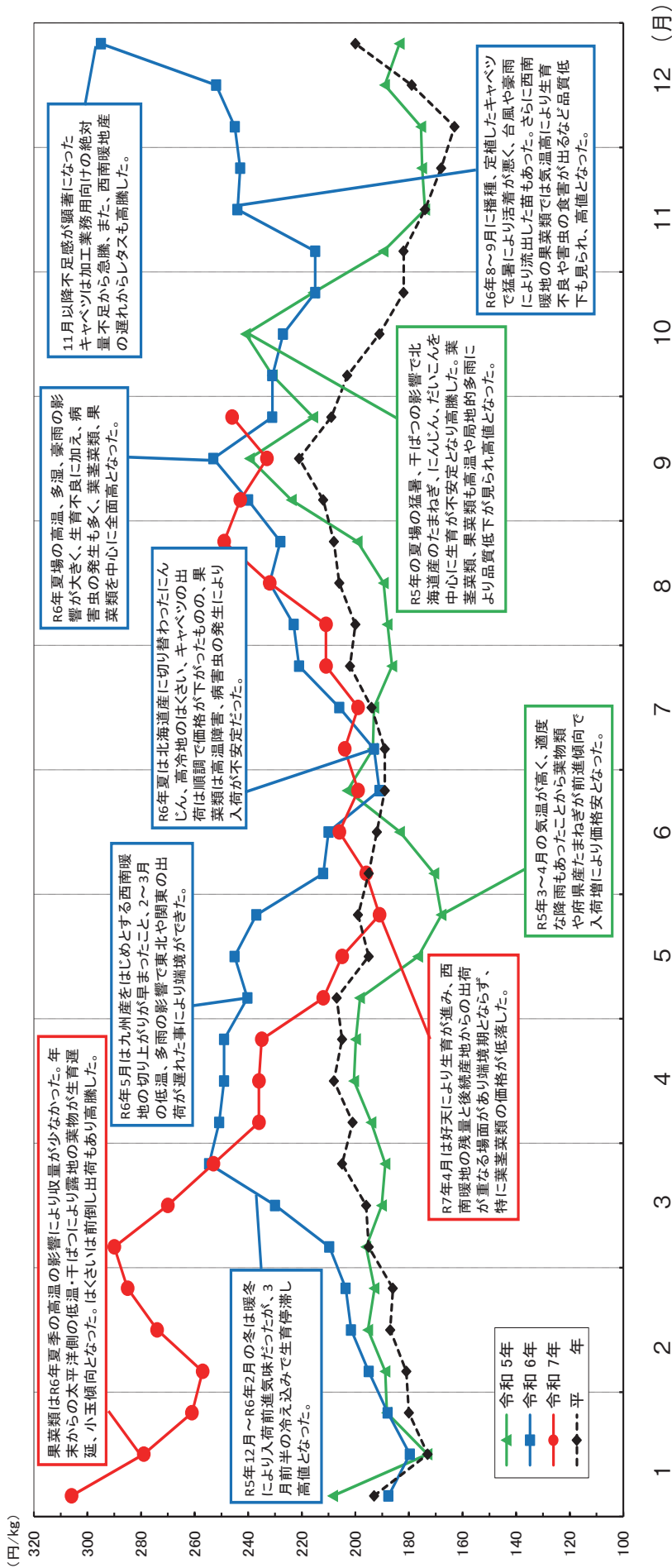
表4 品目別入荷量・価格の動向（大阪市中心卸売市場）

類別	品目	9月の入荷量・価格の動向
根菜類	だいこん 	北海道産を中心に、青森産、岐阜産も主体となる入荷であった。各産地とも生育不良から太物が少なく、産地出荷量は伸び悩んだ。北海道産の入荷量は、旬を追うごとに増加し、月間では前年を大幅に上回った。他方、岐阜産は、全旬を通して入荷量が少ない状況が続いた。月間全体の入荷量は、不作であった前年をかなりの程度上回り、平年を1割以上上回った。 価格は、不足感から高値となり、旬を追うごとに上伸した。月間では高かった前年並みとなり、平年を1割以上上回った。
	にんじん 	北海道産中心の入荷であった。生育不良から小玉傾向で、全旬を通して産地出荷量は伸び悩んだ。業務用関係が、国産の不足分を輸入品で補ったため、輸入の中国産が増えて、月間では前年の2倍以上の入荷量となった。月間全体の入荷量は、前年、平年とも1割以上上回った。 価格は、太物が少なかったため、旬を追うごとに下落し、月間では、前年をわずかに下回り平年を1割以上上回った。
葉茎菜類	はくさい 	長野産の入荷があった。上旬までは8月までの干ばつの影響が残り、入荷量は伸び悩んだが、中旬以降は降雨などにより回復し、増量となった。その後、下旬は再び干ばつ傾向となり、さらなる増量とはならなかった。月間全体の入荷量は、前年をやや下回り、平年を2割近く下回った。 価格は上旬までは高値であったが、中旬以降の入荷増量に伴い下落し、下旬になって需要期を迎えるも、消費地の気温は下からず真夏日も多く、消費は伸び悩んだ。入荷量が少なかった上旬の高値の影響により、月間の価格は、前年をわずかに上回り、平年を1割以上上回った。
	キャベツ類 	群馬産が中心となり、主力の長野産の入荷もあった。両産地とも月の前半は、降雨の影響により玉肥りが良好で産地出荷量も潤沢であったが、下旬には気温低下もあり、大玉の比率が低下して減量となった。月間全体の入荷量は前年をわずかに下回り、平年をやや下回った。 価格は、大玉の減量傾向から中旬以降にやや上伸したが、月間では前年、平年ともやや下回った。
	ほうれんそう 	岐阜産中心の入荷であった。耐暑性品種を導入したことにより、生育が安定し、産地出荷は潤沢で上・中旬の入荷量は前年を大きく上回った。気温が高く前進出荷気味となったことにより、下旬には入荷減量となった。月間全体では少なかった前年を1割以上上回り、平年を1割以上上回った。 価格は、入荷量が多かったものの、例年の時期的な感覚から高値で推移した。月間では、前年をやや下回り、平年をかなりの程度上回った。
	ねぎ（白ねぎ） 	長野産が中心となり、北海道産や鳥取産の入荷があった。長野産と北海道産は干ばつ傾向に加え、朝晩の急な冷え込みから生育が悪く、産地出荷量は伸び悩んだ。長野産、北海道産とも、月間の入荷量は前年を大幅に下回った。鳥取産は全旬とも潤沢な入荷となった。月間全体では前年、平年ともにやや下回った。 入荷量が少なかったものの、消費地の気温が高く需要は伸びなかったため、価格も伸びず、月間の価格は前年をかなりの程度下回り、平年をわずかに上回った。
	ねぎ（青ねぎ） 	青ねぎは、徳島産と香川産を中心に、高知産や鳥取産などの入荷があった。細ねぎは、高知産と静岡産を中心とする入荷であった。各地とも、この時期にしては気温が高く日照量も多く、主産地の出荷は全旬を通して安定かつ潤沢であった。月間では徳島産が前年をかなり上回り、香川産も前年の2倍、高知産、鳥取産、静岡産も前年を大幅に上回る入荷量となった。月間全体の入荷量は前年を大きく上回った。 価格は、大幅な高値であった前年の半分程度となり、平年並みで推移した。
	レタス類 	玉レタスは、長野産中心の入荷であった。干ばつと気温高の影響により、産地出荷量は伸び悩む状況であったが、前年が極端に少なかったため、月間では前年を大幅に上回った。サニーレタスは、長野産が中心となり、干ばつと気温高で生育が悪く、産地出荷量は伸び悩んだ。玉レタスと同様に入荷量が少なかった前年をかなり上回った。リーフレタスも長野産が中心となる入荷で、玉レタスやサニーレタスほどではないが、産地出荷量は多くはないものの、入荷量は前年を上回った。レタス類全体の月間入荷量は、前年を3割以上上回り、平年を1割以上上回った。 価格は玉レタス、サニーレタス、リーフレタスとも、月間全体では、高値だった前年を3割以上下回り、平年をやや下回った。

果菜類	きゅうり 	主力の福島産が中心となり、後続の大阪産や群馬産、また山形産や北海道産などの入荷があった。東北や北日本の産地は潤沢な出荷が続き、入荷量は、福島産は月間では前年を若干上回り、山形産と北海道産は前年を大きく上回った。群馬産は旬を追うごとに増量傾向ではあったものの伸び悩み、月間では前年を大きく下回った。月間全体の入荷量は、前年をやや上回り、平年をやや下回った。 価格は、入荷量が安定する中でも、量販店での特売需要などがあり、荷動きは良く高値で推移した。月間では、高値だった前年をやや下回り、平年を2割近く上回った。
	なす 	千両系は、群馬産を中心として、京都産や山梨産、徳島産などの入荷があった。後続産地の高知産の入荷も始まった。長茄子は、愛媛産が中心となる入荷であった。気温高が続いたことにより、夏秋産地の出荷は前進気味となったため、上・中旬は順調な出荷が続いたが、下旬には減量となった。月間全体の入荷量は、前年を2割近く上回り、平年をわずかに上回った。 月間全体の価格は、高値だった前年をやや下回り、平年をかなりの程度上回った。
	トマト 	岐阜産を中心に、熊本産や岡山産、愛媛産の入荷があった。気温高が続く中でも、高温対策が功を奏し、比較的順調な産地出荷が続いた。出荷が前進気味となったことから、下旬には入荷が減量したが、月間全体では前年をやや上回り、平年をかなりの程度下回った。 価格は、順調な出荷が続く中でも終盤に向けての入荷減量の傾向から、旬を追うごとに上伸を続け、月間では高かった前年並みとなり、平年を2割以上上回った。
	ピーマン 	夏秋産地の宮崎産、愛媛産が中心となる入荷であった。潤沢な入荷が続いたが、終盤に向かう中で、後続の秋冬産地の出荷が始まらず端境が生じた。月間全体の入荷量は、前年をわずかに上回り、平年を1割以上上回った。 価格は、高値だった前年をかなり下回って推移したが、作が終盤に向かい端境が生じたことから、旬を追うごとに上伸した。月間では、前年を2割以上下回り、平年をわずかに下回った。
土物類	さといも 	愛媛産が中心となり、上旬は宮崎産の入荷もあった。愛媛産は中旬から本格的に開始し、順調な出荷が続いた。輸入の中国産の入荷もあり、中旬以降に入荷増量となった。生協や給食関係の発注が多く、中旬以降は入荷量が多い状況が続いたが、月間全体では前年を1割近く下回り、平年を4割以上下回った。 価格は、前月からの高値の影響が残る中で、高値だった前年をわずかに下回り、平年を3割以上上回った。
	ばれいしょ 	丸芋、メークインとも北海道産の入荷があったが、生育期の干ばつと気温高で生育不良となり、全旬を通じ産地出荷量が少ない状況が続いた。月間全体の入荷量は前年を2割以上下回り、平年を2割近く下回った。 価格は、絶対量不足から高騰し、高値で推移した。月間では、前年を2割近く上回り、平年をかなり大きく上回った。
	たまねぎ 	北海道産が中心となり、兵庫産の入荷もあった。北海道産は、6～7月の記録的な気温高による高温障害や、干ばつの影響から、生育不良で産地出荷量が激減した。全旬を通じ入荷量は少なく、月間の入荷量は前年を大きく下回った。兵庫産は、開始時から北海道産の産地貯蔵残量が少なく、九州産も含めて全体の入荷量が少なく、また単価高から例年より早期の段階で多めに出荷された。前年も、前進出荷傾向により産地残量が少なく、入荷量が少なかった年であったため、9月前半は前年を大きく上回ったが、月間全体では前年をかなり下回り、平年も下回った。絶対量不足と大玉が不足していることから、業務用関係では輸入の中国産ヘシフトし、全旬とも前年の1.5倍以上の入荷量となった。月間全体の入荷量は、前年を2割近く下回り、平年を1割以上下回った。 価格は、北海道産の不作から不足感が生じ、旬を追うごとに高騰した。月間では前年を5割近く上回り、平年を6割以上上回った。

(執筆：東果大阪株式会社 新開 茂樹)

(参考) 指定野菜の卸売価格の推移 (東京都中央卸売市場)

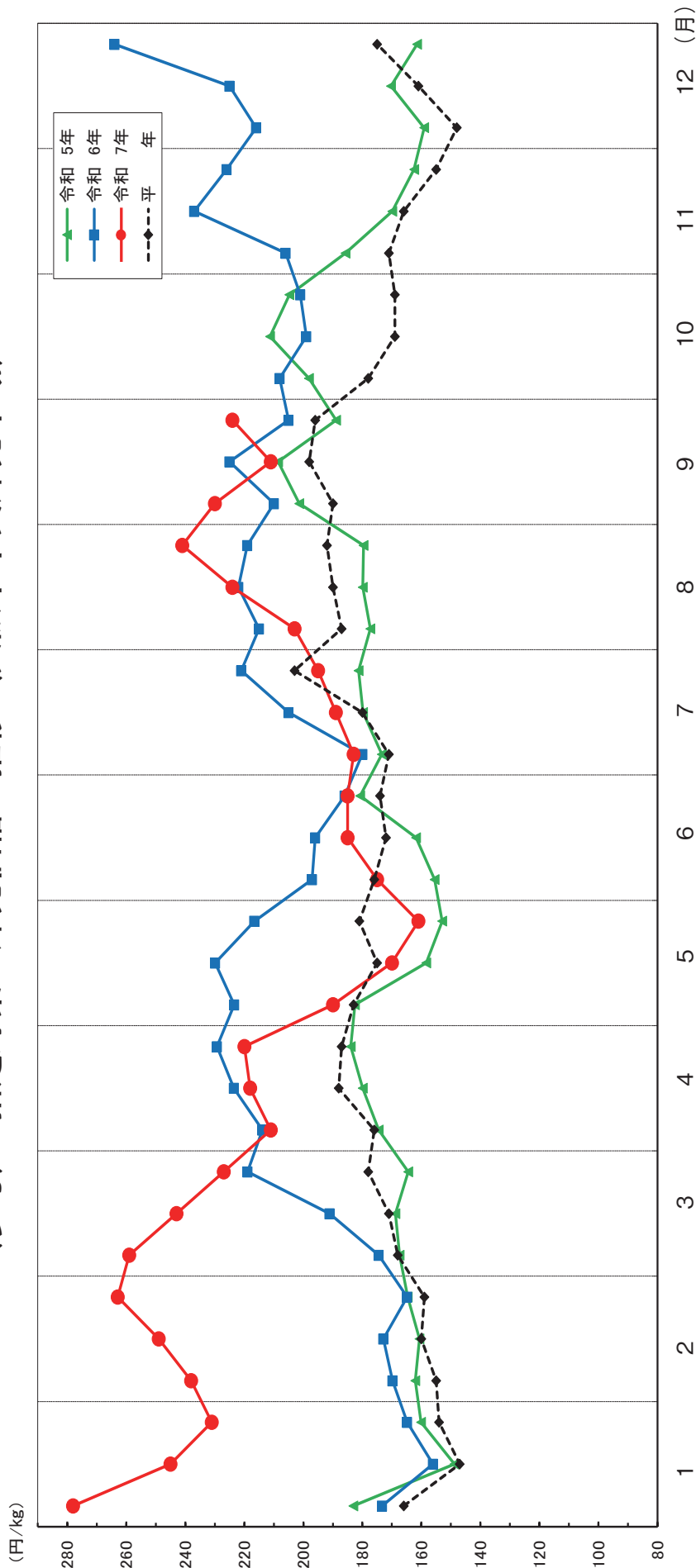


(単位：円/kg)

	1月		2月		3月		4月		5月		6月		7月		8月		9月		10月		11月		12月													
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬												
令和5年	208	173	188	189	195	193	196	190	189	194	200	200	198	177	168	171	183	203	194	193	186	188	189	199	224	239	216	231	241	216	190	174	175	175	189	184
令和6年	188	180	188	195	202	204	210	230	255	251	249	247	240	245	233	212	210	191	193	206	221	223	232	228	240	253	231	231	227	215	215	244	243	245	252	295
令和7年	306	279	261	257	274	285	290	270	253	236	236	235	212	205	191	196	206	199	204	199	211	211	232	249	243	233	246									
平	193	173	180	181	187	186	195	196	205	201	208	205	207	195	199	195	192	189	189	194	202	200	206	208	212	221	209	203	191	182	182	174	168	163	179	200

資料：農林水産省「青果物卸売市場調査」
注1：平年とは、過去5力年（令和2年～6年）の旬別価格の平均値である。
注2：豊洲市場、大田市場、豊島市場、定橋市場の4市場のデータである。

(参考) 指定野菜の卸売価格の推移 (大阪市中央卸売市場)



(単位：円/kg)

	1月		2月		3月		4月		5月		6月		7月		8月		9月		10月		11月		12月	
	上旬	中旬	上旬	中旬	上旬	中旬	上旬	中旬	上旬	中旬	上旬	中旬	上旬	中旬	上旬	中旬	上旬	中旬	上旬	中旬	上旬	中旬	上旬	中旬
令和 5年	183	149	160	162	161	165	167	169	165	174	180	184	182	158	153	155	162	181	173	180	181	177	180	180
令和 6年	173	156	165	170	173	165	174	191	219	214	224	229	223	230	217	197	196	186	180	205	221	215	222	219
令和 7年	278	245	231	238	249	263	259	243	227	211	218	220	190	170	161	175	185	183	189	195	203	224	241	230
平	166	147	154	155	160	159	168	171	178	176	188	187	183	175	181	176	172	174	171	180	203	187	190	192

資料：農林水産省「青果物卸売市場調査」

注1：平年とは、過去5カ年（令和2年～6年）の旬別価格の平均値である。

注2：大阪本場及び大阪東部市場のデータである。